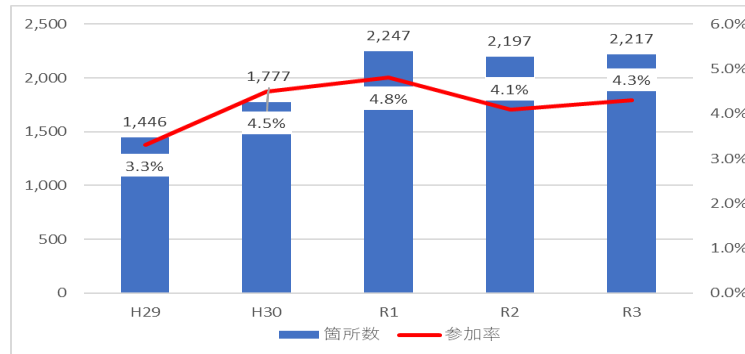


現状・課題等

- 本県の平均寿命・健康寿命は、男女とも全国上位にあります。引き続き、平均寿命と健康寿命の差の縮小に向けた取組を進めていく必要があります。(下表)
- フレイルの進行を予防するためには、「食(栄養)」「運動」「社会参加」の観点からの取組が重要です。県では、令和元年度より、滋賀県栄養士会に委託して、在宅での食事や栄養に関する相談を受け付けるほか、老人クラブ等の地域団体を対象に、生活習慣病の発症・重症化予防、低栄養予防、フレイル予防に関する出前講座を実施しています。
- 市町では、介護予防・日常生活支援総合事業として、高齢者が気軽に通える範囲で継続して運動等が行える「通いの場」の設置が進められています。県内では、令和3年度において、2,247か所設置され、週1回以上の参加者数は15,876人(参加率4.3%)となっており、新型コロナウイルス感染症の発生前(令和元年度)と比較すると、設置箇所数、参加率はともに減少しています。(下図)
- 令和4年度に県が実施した「滋賀の医療福祉に関する県民意識調査」において、新型コロナウイルス感染症の影響の有無を尋ねたところ、85.6%が「影響があった」と回答しており、影響の内容として、「外出の機会が減った(79.7%)」「人と話す機会が減った(58.6%)」「趣味活動や社会参加の頻度が減った(47.5%)」などとなっています。
- また、東京大学高齢社会総合研究機構が実施した調査において、新型コロナ流行に伴う外出自粛の長期化により、高齢者のフレイル化が進行したと指摘しています。
- 住民主体の生活支援などの取組を支える「生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)」は、令和4年9月時点で、すべての市町に合計108名(第1層、第2層)が配置されています。一方で、毎年のように人が変わり、取組の積み上げが図りづらい、市町によって進捗状況や成果に格差が生じているといった課題があります。

		平均寿命 (令和2年)		健康寿命 (令和元年)	
		値	順位	値	順位
男性	滋賀県	82.73	1位	81.07	2位
	全国	81.49	—	79.91	—
女性	滋賀県	88.26	2位	84.61	7位
	全国	87.60	—	84.18	—

表：平均寿命・健康寿命の状況(出典：厚生労働省)



図：通いの場の箇所数と参加率(週1回以上)の推移(出典：介護予防・日常生活支援総合事業(地域支援事業)実施状況調査)

施策の方向と取組

- 生涯を通じた健康づくりの推進に取り組むとともに、高齢になっても地域の中で生きがいや役割をもって生活できるような居場所と出番づくりの支援や健康づくりの意識啓発など、高齢者の健康増進や介護予防に向けた取組を進めます。
- 介護予防の取組が、市町において一体的、効果的に実施されるよう、好事例の収集・紹介や、市町間の情報共有・意見交換、研修会の開催および伴走支援を行うなど、引き続き、介護予防につながる地域づくりの取組を支援します。